

報道関係者各位

# 世界一白い器展

NIKKO COMPANY presents

Exhibition of the whitest tableware in the world

## 企画概要

ニッコーは、来る2015年11月10日(火)から11月23日(月)まで、金沢21世紀美術館市民ギャラリーにて展覧会を開催致します。このたびの展覧会【世界一白い器展 - 日本が生んだ奇跡のポーンチャイナ -】は、純白を追い求める陶磁器の歴史の中で、ニッコーが独自開発した「NIKKO FINE BONE CHINA」\*<sup>1</sup>に焦点を当てた、これまでにない展覧会となります。

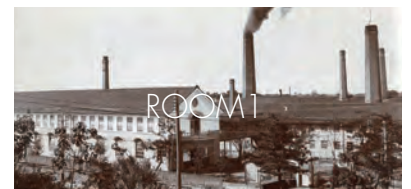
陶磁器の歴史は、白さを追い求めるロマンそのものであることは、あまり知られておりません。東洋と西洋を繋ぐ、セラミックロードの技術革新の過程の中で、陶磁器はより薄く、より白く進化を遂げていきました。ニッコーは、1908年(明治41年)に金沢で創業以来、様々な素材開発を続けてきました。そして1978年、セラミックロードの終着点ともいえる純白の「NIKKO FINE BONE CHINA」の開発に成功しました。究極の白さと称されるその輝きは、あらゆるジャンルの料理やデザートを鮮やかに惹き立て、最高の一皿に仕上げます。「NIKKO FINE BONE CHINA」は食のプロフェッショナルの心を掴み、世界中のレストランやホテルで採用され、また、一般のご家庭でも愛用されております。

本展は、国内外で評価されるアーティスト、老舗店とのコラボレーションや、初公開となる「Art Painters Labo」\*<sup>2</sup>のハンドペインティング作品をはじめ、ニッコーブランドの新たな取り組みから、「器」の歴史・可能性について、現代の人々に提示できる、またとない機会になると考えております。「器」の持つ奥深さ、愉しみ、華やかさを、より多くの方に感じて知って頂くと共に、「食」に対する自由な発想と想像力を刺激する機会となれば幸いです。

## 展覧会のみどころ

### 1. NIKKOの歴史 [ROOM1]

硬質陶器の製造から始まったニッコーの歴史を実際の商品とともに振り返りながら、製造現場の息遣いを映像でお届けします。



### 2. NIKKO FINE BONE CHINAの魅力 [ROOM2]

純白を追い求めた陶磁器の歴史を分かりやすくご説明し、ニッコーの純白器の秘密や、その製造に使用される特別な道具も展示します。



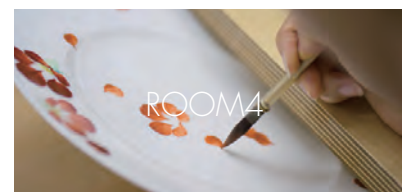
### 3. 日本の伝統とのコラボレーション [ROOM3]

今年400周年を迎えた琳派作家の展示と、琳派の流れを汲む現代作家による作品を陶板で再現する転写の技術、金箔の銘店「箔座」と共同開発した金箔を磁器に焼き付ける技術から、伝統とのコラボレーションで生れる新たな価値をお見せします。



### 4. 新しい食体験 [ROOM4]

本展で初お披露目となる「Art Painters Labo」の作品は今までにない手描きの魅力をお伝えします。また、「NIKKO GUIDE in KANAZAWA」\*<sup>3</sup>では、ニッコーを愛用するお店と美術館をWEBを通じて繋ぎ、展覧会場を飛び出して「金沢×食×器」の魅力を体感していただきます。



## 開催概要

【世界一白い器展 - 日本が生んだ奇跡のボーンチャイナ -】

会期 2015年11月10日(火)~23日(月・祝日)  
休館日 月曜日(11月16日)  
開館時間 午前10時から午後6時(最終日は午後4時まで)  
会場 金沢21世紀美術館 市民ギャラリー B1,B3(地下1階)  
〒920-8509 石川県金沢市広坂1-2-1  
主催 ニッコー株式会社  
協力者 大樋年雄  
原画出展者 大谷光演(1875-1943 東本願寺23世法主)  
石井竜也(アーティスト)  
片岡鶴太郎(俳優・画家)  
コシノヒロコ(ファッションデザイナー・画家)  
織作峰子(写真家)  
協力会社 箔座株式会社  
ナカダ株式会社(順不同、敬称略)  
観覧料 無料



「世界一白い器展」フライヤー

## 展示会に関する問い合わせ先

ニッコー株式会社  
戦略本部マーケティング室 担当:家所  
Tel:03-5214-1526  
Fax:03-5214-1550  
Email: m.iedokoro@nikko-company.co.jp  
HP: <http://www.nikko-company.co.jp/>

### 【NIKKO について】

ニッコー株式会社は1908年(明治41年)石川県金沢市にて創業いたしました。

硬質陶器の製造から始め、様々な素材開発・製造技術・焼成技術・加工技術などを磨き続け、今日に至っています。

#### \*1「NIKKO FINE BONE CHINA」

ニッコーでは、1978年からボーンチャイナの生産を開始しました。通常は難しいとされておりますが、原料であるボーンアッシュの含有量を50%まで高めることで、群を抜いた透光性と強度、気品あふれる純白を実現しました。世界の多くのトップシェフに支持頂いています。

#### \*2「Art Painters Labo」

今だからこそ、あえて手で一品一品描く、ハンドペインティングの新しいラボです。一般的な青白い磁器に描くハンドペインティングではなく、NIKKO FINE BONE CHINAの純白の素地に描くため、透き通るような、これまでにない魅力をもつ器を創っています。既に最高級ホテルラウンジでの採用が決まり、おもてなしの場で使用されております。一般販売は来春を予定しております。

#### \*3「NIKKO GUIDE in KANAZAWA」 <http://nikko-tabletop.jp/>

ニッコーガイドでは、器にこだわりを持ち、ニッコー製品を愛用して頂いているお店をご紹介します。WEBコンテンツになります。新しいお店とのめぐり合わせに、器がきっかけとなれば食文化の向上に貢献できると考えております。